

「吟味」のための方法論が内在していないことは少なくとも事実であろう。なお、ソフトとハードの違いのより詳細な議論については Senoh(妹尾) [10] も参照方。

3) SSMの総論的解説として, [7][8][11]がある
ので, ここでは方法論自身の解説は行なわない。

参考文献

- [1] Ackoff, R.L.: *The Art of Problem Solving*, John Wiley, New York, 1978. (川瀬武志・辻新六訳『問題解決のアート』, 建帛社, 1984.)
- [2] Ackoff, R.L.: *Creating the Corporate Future*, John Wiley, New York, 1981.
- [3] Ackoff, R.L.: *Management in Small Doses*, John Wiley, New York, 1986. (牧野昇監訳『創造する経営』有斐閣, 1988.)
- [4] Checkland, P.B.: *Systems Thinking, Systems Practice*, John Wiley, Chichester, 1981. (高原康彦・中野文平監訳『新しいシステムアプローチ』, オーム社, 1985.)
- [5] Checkland, P.B., and Scholes J.: *Soft Systems Methodology in Action*, John Wiley, Chichester, 1990.
- [6] Flood, R.L., and Jackson, M. C.: *Creative Problem Solving: Total Systems Intervention*,

John Wiley, Chichester, 1991.

- [7] 平野雅章: ソフト・システムズ・メソドロジー (SSM) 序説, 早稲田大学システム研紀要 Vol. 19 (1989), 107-117.
- [8] 木嶋恭一他「特集: ソフト・システムズ・アプローチ」, オペレーションズ・リサーチ, 1988年7月号
- [9] Negoro, T. (根来): Critique of 'Total Systems Intervention', 投稿中.
- [10] Senoh K. (妹尾): How can we use a 'hard' method in a 'soft' way? *Systems Thinking in Europe* (eds. Jackson M.C. et al.), Plenum, London, 1981.
- [11] 高原康彦, 「問題解決へのソフト・システムズ・アプローチ」, オペレーションズ・リサーチ, 1985年3月号, 157-162.
- [12] Ulrich, W.: *Critical Heuristics of Social Planning*, Haupt, Berne, 1983.
- [13] Ulrich, W.: Critical Systems Heuristics of Social Systems Design. *Eur. J. Operat. Res. Soc.* Vol. 31(1987), 276-283.
- [14] Wilson B.: *Systems: Concepts, Methodologies and Applications(2nd Ed.)*, John Wiley, Chichester, 1990.

追悼

高橋浩一郎先生を偲んで

青山学院大学 鈴木 栄一

8月21日, 高橋浩一郎先生は78才でご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

先生は1936年, 東京帝国大学理学部物理学科をご卒業後, 約38年気象界で大活躍をされ, その後は筑波大学地球科学系教授として後進のご指導をされた。

気象界では, 予報課長 (1945~), 気象研究所部長 (1964~), 気象庁予報部長 (1970), 第5代気象庁長官 (1971~1974) を歴任され, 私は気象研究所で約10年間ご指導をいただいた。

200篇をこえる学術論文, 30冊余の編著書で, 天気予報はもちろん, 多面的分野で優れたご業績を残された。これらの大部分は「気象百年史」およびその資料編(昭50:3), 高橋浩一郎科学論文集 (平成2年) などに収録されている。

ここではOR関係の業績と筆者がご教示いただいた諸点を述べる。

1956年, 日科技連のオペレーションズ・リサーチ誌 Vol. 1, No. 1 に執筆された頃からORへの強い関心をもたれ, 翌年日本OR学会発足と同時に加入された後, 評議員として活躍された。モンテカルロ法, 数値シミュレーション諸手法の気象災害論への応用を研究された。

筆者には情報理論・予測理論の研究で多面的示唆を与えられた。

気象庁長官を退官されてからも, 筑波大学, 早稲田大学などで多くの学生を指導され, 同時に気象災害の研究を10年以上も継続され, 「災害の研究」誌に数多くの論文を発表されたのは「災害防止こそ自分の使命」といわれたことの実践である。

先生は「量的予報の研究」で第1回技術院賞, 「長期予報の研究」で運輸大臣賞を受けられ, その後藤原賞, 交通文化賞と多くの賞を受けられた。